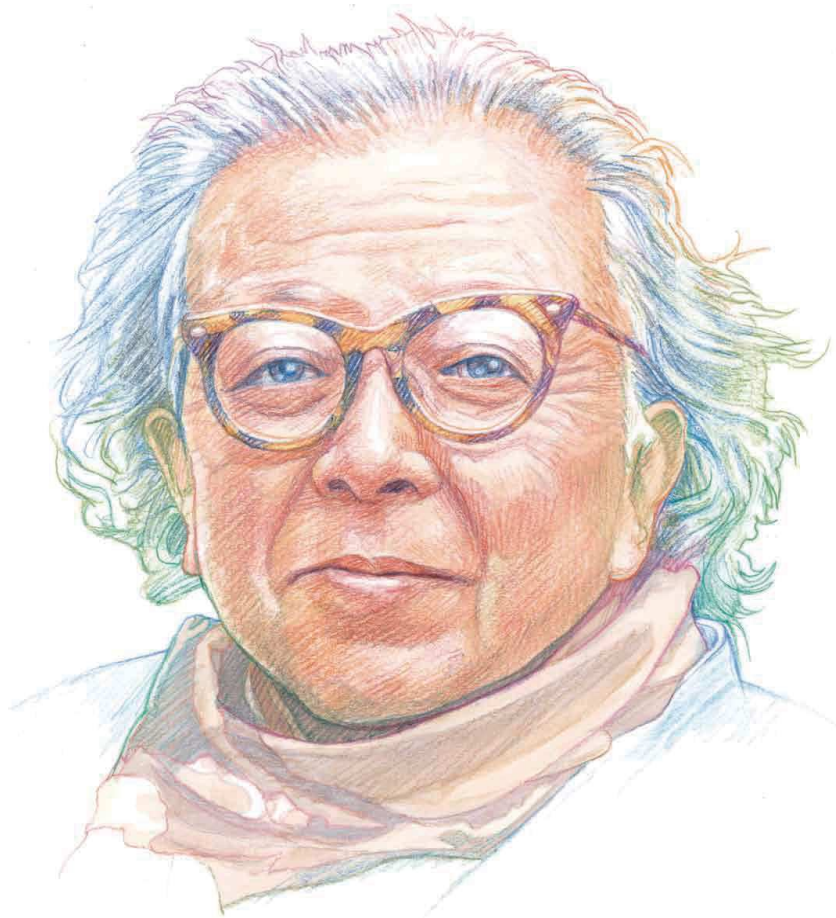


徹底^{てつてい}写生^{せいせい}・創意工夫

うえむら せんぎよ

上村占魚

Uemura Sengyo



大正9年(1920)～平成8年(1996)

人吉市生まれ

俳人、漆工芸家

俳句を後藤^{ごとう}是山^{ぜざん}に学び、東京美術学校進学を機に松本^{まつもと}たかし、高浜^{たかはま}虚子^{きよこ}に師事。29歳から俳誌『みそさゞい』を主宰^{しゅざい}する。酒と旅を愛した望郷の俳人と評される。写生を基調とした明瞭^{めいりょう}な句の中に、どこか寂しくて温もりのある言葉が生み出される。その根底には、球磨^{くま}の風土と母・父・息子・恩師^{おんし}らとの次々と続く別れの風景があるとされる。句集『鮎』のほか、『遊びをせんとや』などの随筆集^{ずいひつ}もある。